2027年度　さいたま市立病院　（病床数　６３７）【1年次】

受入人数	【1年次】1名

常勤・非常勤	研修手当						勤務時間	休暇				当直/月	宿舎	社会保険・労働保険等
	基本手当		賞与		時間外	休日		有給		夏季	年末年始			
	1年次	2年次	1年次	2年次				1年次	2年次					
常勤	396,720		有		有	有	8:30～17:15	10日		5日	有	4回～5回／月	無	健康保険（埼玉県市町村共済組合）・年金（厚生年金）・雇用保険・労災保険　加入

○ 研修診療科（必修科目）について

科目	研修内容（手技・症例数・指導医数等）
内科	各専門科（循環器、呼吸器、消化器、神経、血液、腎臓・内分泌・膠原病）に分かれてローテートします。その間どこをローテートしていても総合内科の患者には対応します。まず、各科において、内科医としての基本的な技術（医療面接、身体所見、カルテ記載、一般的な検査の適応とオーダー）について多くの指導医の下で繰り返し学ぶことができます。また、それぞれの専門的な検査、治療についても積極的に学んでいただけます。循環器では、心臓カテーテル検査や超音波検査など、呼吸器では気管支鏡検査や胸腔ドレーンの挿入、消化器では超音波や内視鏡検査、血液では骨髄検査、腎臓では血液透析、内分泌では内科、外科問わず入院病棟での血糖管理について、それぞれの指導医の下で入念な指導が受けられます。 さらに、シミュレーショントレーニングを年々バージョンアップしており、除細動、気管挿管、中心静脈カテーテル挿入、上下部内視鏡検査モデルなど、十分なトレーニングができる環境整備を行っております。超音波装置は検査室や救急外来、専門病棟に配備されており、指導医、検査技師の下でたくさんの症例が経験できます。内科当直では、指導医2年目研修医と一緒に患者さんの初期対応を勉強します。 軽症から心筋梗塞、脳卒中、出血性ショック、心肺停止 など重症まで、十分すぎるほどの症例を経験できます。
救急科	2020年12月より救命救急センターの指定を受け、さらなる機能の拡充を図っています。 一次・二次救急部門は各科の医師が協力して運営し、トリアージと診断、初期治療を行った後、臨床各科に引き継ぎ専門治療を行うシステムを採用しています。いわゆる「common disease」を数多く経験できる、研修医にとって絶好の「学びの場」です。上級医の指導の下、救急患者へのfirst touchから身体診察、各種検査のオーダーとその結果の判断・解釈、その後の方針決定まで、いずれの場面でも主体的な役割を担うことによって、多くの研修医が豊富な知識・経験を持った責任感のある医師へと成長しています。 救命救急センターは三次救急に対応しており、専従医師が初療からICU管理まで一貫して行っています。多発外傷、心肺停止、ショック、高度意識障害、中毒、低体温症/熱中症などの重症・重篤患者の初期診療や、緊急開胸・開腹術の施行や術後管理、人工呼吸器管理や血液浄化療法、体外補助循環などを用いた集中治療をチームの一員として行います。
外科	外科ローテーションでは消化器外科・呼吸器外科・血管外科病棟での業務を通じて、手術患者の術前・術後管理と、創部・ドレーン管理の基本を研修します。胃癌・大腸癌から、虫垂炎・鼠径ヘルニア・静脈瘤など多くの症例の手術に触れることができます。予定手術では術前カンファレンスへ参加し、術式選択などのディスカッションに加わり、手術治療の基本を研修します。
小児科	地域の小児医療の中核病院であり、胃腸炎、肺炎などの一般的感冒から内分泌、アレルギー疾患まで症例は多様で豊富です。即実践につながる臨床に加え、抄読会やミニレクチャーなど学術的な指導も充実しており、小児医療の基礎修得に最適な施設です。
産婦人科	2年目に慶應義塾大学病院で研修する。
精神科	2年目に慶應義塾大学病院で研修する。
一般外来	内科、小児科のローテーション時に並行研修として行います。（内科：3週、小児科：1週）

必修科目の研修ができない場合、選択可能な診療科
なし

○研修アピール
さいたま市立病院は、政令指定都市であるさいたま市の基幹病院の一つです。当院の特徴は急性期病院であること、救急医療を重視していること、がん診療拠点病院であること、そして周産期医療を担っていることです。救急は一次と二次救急、救命救急センターがあります。当院の診療内容は、初期臨床研修の目標であるcommon diseaseを多数経験し、primary careにおけるminimal requirementを習得するのにたいへん適しており、当院での研修により十分な臨床経験を積むことができ、医師としての基本的診療能力、姿勢や態度を身につけることができます。また、最新鋭の医療設備と医療機器が設置され、とくに救急医療の設備が充実しており、令和5年度より研修医等の研修のためのシミュレーションラボ室も開設しております。さいたま市立病院にはこのように臨床研修に必要な症例、設備、環境が整っています。

○研修医からのメッセージ
当院で医師人生をスタートしてから、早くも1年が経ちました。1年経った今でも「この病院に来られて良かった」と心から思えるほど、毎日楽しく充実した研修医生活を送らせていただいております。
私が研修病院を決める際「風通しが良い雰囲気」「診療科の充実」を特に重視しておりましたが、当院は抜群に雰囲気が良く、スタッフの皆さんが活き活きと働いている様子がとても印象的でした。それは入職した今も全く変わっていません。専攻医やスタッフの先生方の人数が多く、仕事に前向きで、目標としたいと思う方々が身近にたくさんいます。勉強のモチベーションも自然に上がる環境だと思います。
入職当初、私は期待よりも不安の方が大きかったですが、優しい看護師さんや先生方、多職種の方々に支えられ、少しずつできることが増えていきました。困っていて途方に暮れている時も、決して一人にはされず、必ず誰かが声をかけてくださり、質問にも丁寧に答えてくださいました。一方で、診療では担当医の一員として意見を求められることも多く、自分で主体的に考え、積極的に発信できる環境が整っています。手技の経験も豊富で、点滴・採血はもちろんのこと、CV、Aライン、挿管、胸腔ドレーンなど学生の時はしないような手技も指導医の先生のご指導の下たくさん経験でき、毎度手厚いフィードバックもいただけるため着実に成長していけます。病院全体として「研修医を育てよう」という文化が根付いており、何事にも安心して挑戦できるのは当院の大きな強みだと感じています。
同期は個性豊かで面白い人が多く毎日本当に楽しいです。仕事が終わり研修医室に帰るといつもにぎやかな声であふれています。ですが全員勉学に積極的で、研修医室ではその日学んだことや印象に残った症例を共有したり、自主的に勉強会を開いたり、みんなで心電図検定の勉強に取り組んだりと日々互いに高め合っています。もちろん勉強だけではなく、休日には同期と旅行に行ったり、飲み会をしたり、夏には同期でコテージに泊まってBBQや花火をしたりと熱い夏を過ごしました。仕事でうまくいかなくて落ち込んでいる時も、前を向いて頑張ろうと思えるのは同期のおかげです。
人の温かさ、教育体制、そして病院全体の雰囲気。どれをとっても誇れる環境が当院にはあります。ぜひ一度足を運び、その空気を感じてみてください。皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。

以下、慶應義塾大学病院から研修医への注意事項

・外科研修はその他の外科系の診療科への振り替えは認めません。
・必修科目がある病院では、必ず必修科目を研修してください。振り替えは認めません。

研修実施責任者　：　小児科部長　明石　真幸

※問い合わせ先

担当部署・担当者名　：　病院総務課・高橋　宗一郎

住所：　さいたま市緑区三室2460番地

TEL：　048-873-4217

E-mail：　hsp-jimukyoku-somu@city.saitama.lg.jp